



変更前タスクとシステムヘルスチェック

- [変更前のタスク](#) (1 ページ)
- [IP アドレス、ホスト名、およびその他のネットワーク識別子の変更](#) (1 ページ)
- [手順のワークフロー](#) (4 ページ)
- [Cisco Unified Communications Manager ノードの変更前タスク](#) (6 ページ)
- [IM and Presence サービス ノードの変更前セットアップタスク](#) (8 ページ)

変更前のタスク

IP アドレス、ホスト名、およびその他のネットワーク識別子の変更

導入におけるノードのネットワークレベルの IP アドレスとホスト名をさまざまな理由で変更できます。これには、クラスタ間でノードを移動することや、重複している IP アドレスの問題を解決することが含まれます。IP アドレスは、ノードに関連付けられたネットワークレベルの Internet Protocol (IP) ではホスト名は、ノードのネットワークレベルのホスト名です。



(注) すべての統合コミュニケーション製品 (Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unity Connections、Cisco IM and Presence など) は、1 つのインターフェイスしか持っていません。したがって、これらの製品ごとに IP アドレスを 1 つずつ割り当てることができます。

ノード名やドメイン名など、その他のネットワーク ID の変更については、次のリソースを参照してください。

- [Cisco Unified Communications Manager システム設定ガイド](#)
- [IM and Presence Service 設定および管理ガイド](#)
- [Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence Service のインストールガイド](#)

IM and Presence Serviceにおけるノードのノード名およびネットワーク レベル DNS デフォルトドメイン名を変更する手順については、このドキュメントでも扱われています。

IM and Presence Service ノード名およびデフォルトのドメイン名の変更

ノード名は、Cisco Unified CM Administration GUI を使用して設定され、その他すべての IM and Presence Service ノードとすべてのクライアント マシンから解決可能である必要があります。したがって、推奨されるノード名の値は、ノードのネットワーク FQDN です。ただし、IP アドレスとホスト名のどちらも、特定の導入ではノード名の値としてサポートされています。ノード名の推奨事項とサポートされている導入タイプの詳細については、[ホスト名の設定](#)を参照してください。

ノードのネットワーク レベルの DNS デフォルトドメイン名はホスト名と結合され、ノードの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を形成します。たとえば、ホスト名が「imp-server」で、ドメインが「example.com」であるノードの FQDN は「imp-server.example.com」になります。

ノードのネットワーク レベル DNS デフォルトドメインを、IM and Presence Service アプリケーションの企業ドメインと混同しないでください。

- ネットワークレベルの DNS デフォルトドメインは、ノードのネットワーク ID としてのみ使用されます。
- 企業の IM and Presence Service ドメインは、エンドユーザの IM アドレスで使用されるアプリケーションレベルのドメインです。

Cisco Unified CM IM and Presence Administration GUI または Cisco Unified Communications Manager Administration を使用して企業全体のドメインを設定できます。企業ドメインの推奨事項とサポートされる導入タイプの詳細については、『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

ホスト名の設定

次の表に、Unified Communications Manager サーバのホスト名を設定できる場所、ホスト名として指定できる文字数、および推奨されるホスト名の先頭文字と最終文字を示します。ホスト名を正しく設定しないと、Unified Communications Manager の一部のコンポーネント（オペレーティングシステム、データベース、インストールなど）が期待通りに機能しない可能性があります。

表 1: Cisco Unified Communications Manager におけるホスト名の設定

ホスト名の場所	可能な設定	指定できる文字数	推奨されるホスト名の先頭文字	推奨されるホスト名の最終文字
[ホスト名/IP アドレス (Host Name/IP Address)]フィールド Cisco Unified Communications Manager Administration の [システム (System)]>[サーバ (Server)]	クラスタ内のサーバのホスト名を追加または変更できません。	2 ~ 63	英字	英数字
[ホスト名 (Hostname)]フィールド Cisco Unified Communications Manager インストール ウィザード	クラスタ内のサーバのホスト名を追加できます。	1 ~ 63	英字	英数字
[ホスト名 (Hostname)]フィールド Cisco Unified Communications オペレーティング システム の [設定 (Settings)]>[IP]>[イーサネット (Ethernet)]	クラスタ内のサーバのホスト名を変更できますが、追加はできません。	1 ~ 63	英字	英数字
set network hostname hostname コマンドライン インターフェイス	クラスタ内のサーバのホスト名を変更できますが、追加はできません。	1 ~ 63	英字	英数字



ヒント このホスト名は、ARPANET ホスト名の規則に従う必要があります。ホスト名の先頭文字と最終文字の間には、英数文字とハイフンを入力できます。

いずれかの場所でホスト名を設定する前に、次の情報を確認してください。

- [サーバの設定 (Server Configuration)]ウィンドウの [ホスト名/IP アドレス (Host Name/IP Address)]フィールドは、デバイスとサーバ間、アプリケーションとサーバ間、および異なるサーバ間の通信をサポートします。このフィールドには、ドット区切り形式の IPv4 アドレスまたはホスト名を入力できます。

Unified Communications Manager パブリッシュ ノードをインストールした後は、パブリッシュ ノードのホスト名がこのフィールドに自動的に表示されます。Unified Communications Manager サブスクライバ ノードをインストールする前に、Unified Communications Manager パブリッシュ ノードでこのフィールドにサブスクライバ ノードの IP アドレスまたはホスト名を入力してください。

このフィールドにホスト名を設定できるのは、Unified Communications Manager が DNS サーバにアクセスしてホスト名を IP アドレスに解決できる場合のみです。DNS サーバに Cisco Unified Communications Manager の名前とアドレスの情報が設定されていることを確認してください。



ヒント DNS サーバに Unified Communications Manager の情報を設定するのに加えて、Cisco Unified Communications Manager のインストール時に DNS 情報を入力します。

- Unified Communications Manager パブリッシャ ノードのインストール時に、ネットワーク情報を設定するために（つまり、スタティックネットワークを使用する場合に）パブリッシャ サーバのホスト名（必須）と IP アドレスを入力します。

Unified Communications Manager サブスクリバ ノードのインストール時には、Unified Communications Manager パブリッシャ ノードのホスト名と IP アドレスを入力して、Unified Communications Manager がネットワークの接続性およびパブリッシャ とサブスクリバ 間の検証を確認できるようにしてください。さらに、サブスクリバ ノードのホスト名と IP アドレスも入力する必要があります。Unified Communications Manager のインストール時にサブスクリバ サーバのホスト名の入力を求められた場合は、Cisco Unified Communications Manager Administration の [ホスト名/IP アドレス (Host Name/IP Address)] フィールドでサブスクリバ サーバのホスト名を設定した場合に [サーバの設定 (Server Configuration)] ウィンドウに表示される値を入力します。

手順のワークフロー

Cisco Unified Communications Manager ワークフロー

このドキュメントでは、Cisco Unified Communications Manager ノード上における次のタスクの詳細な手順を取り上げます。

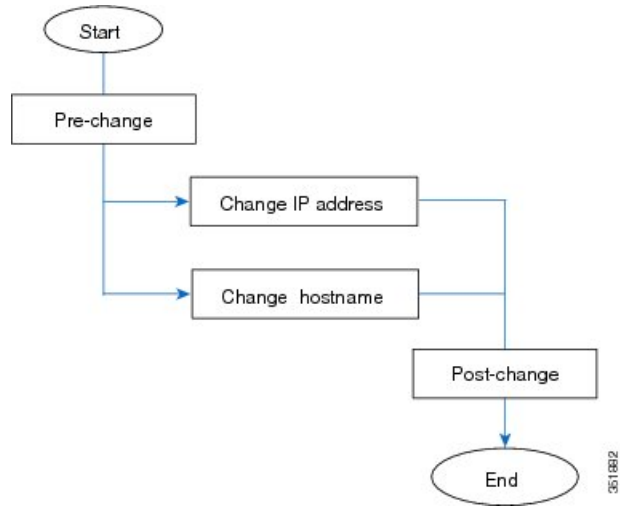
- ノードの IP アドレスの変更
- ノードのホスト名の変更

実行するステップを要約したそれぞれの手順に関してタスク リストが示されます。



(注) こうした変更を行う前に変更前タスクすべてとシステムヘルスチェックを実行し、変更後には変更後タスクを実行しなければなりません。

図 1: Cisco Unified Communications Manager ワークフロー



IM and Presence Service のワークフロー

このマニュアルでは、IM and Presence Service ノードに対する以下の作業の詳細な手順を示します。

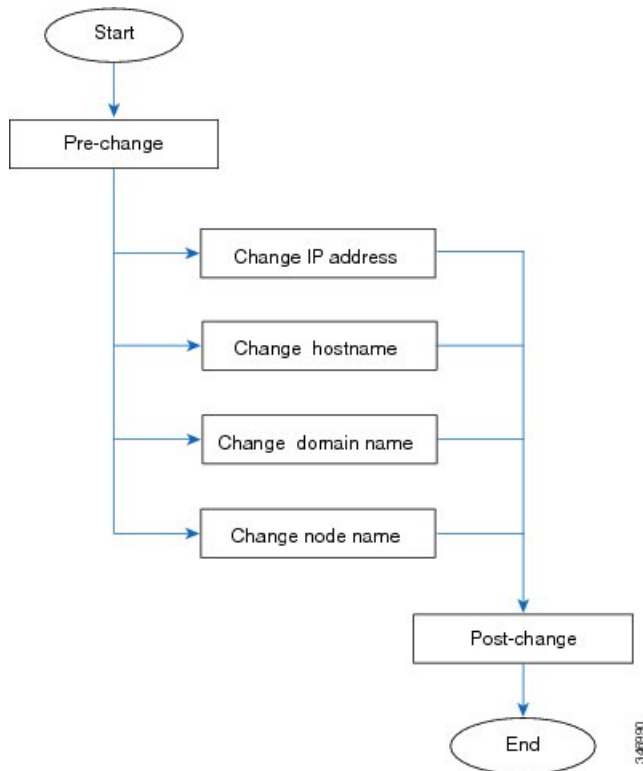
- ノードの IP アドレスの変更
- ノードのホスト名の変更
- DNS デフォルト ドメイン名の変更
- ノードのノード名の変更

実行するステップを要約したそれぞれの手順に関してタスク リストが示されます。



(注) こうした変更を行う前に変更前タスクすべてとシステムヘルスチェックを実行し、変更後には変更後タスクを実行しなければなりません。

図 2: IM and Presence Service のワークフロー



Cisco Unified Communications Manager ノードの変更前タスク

次の手順で、Cisco Unified Communications Manager ノードの IP アドレスとホスト名を変更する作業について説明します。これらの手順は、スケジュールしたメンテナンス時間内に実行する必要があります。



注意 これらのタスクを実行しても期待する結果が得られない場合は、問題が解決されるまで続行しないでください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager サーバ内で DNS が設定されている場合、正引きおよび逆レコード (A レコードと PTR レコードなど) が設定されていて、DNS が到達可能で作動していることを確認します。

ステップ 2 アクティブな **ServerDown** 警告が出ていないことを確認し、クラスタ内のすべてのサーバが稼働していて利用可能であることを確かめます。最初のノードで、Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool (RTMT) またはコマンドラインインターフェイス (CLI) のいずれかを使用します。

- a) Unified RTMT を使用して確認するには、Alert Central にアクセスし、ServerDown 警告が発生していないか調べます。
- b) 最初のノードで CLI を使用して確認するには、次の CLI コマンドを入力してアプリケーションのイベントログを調べます。

```
file search activelog syslog/CiscoSyslog ServerDown
```

出力例については、データベースレプリケーションの出力例に関するトピックを参照してください。詳細な手順およびトラブルシューティングについては、データベースレプリケーションおよびデータベースレプリケーションのトラブルシューティングについてのトピックを参照してください。

ステップ 3 クラスタにあるすべての Cisco Unified Communications Manager ノードでデータベースレプリケーションのステータスを調べ、すべてのサーバがデータベースの変更内容を正常に複製していることを確認します。IM and Presence Service の場合、導入環境に複数のノードがあるときにはデータベースパブリッシャノードでデータベースレプリケーションのステータスを調べます。Unified RTMT または CLI を使用します。すべてのノードで 2 のステータスが表示される必要があります。

1. RTMT を使用して確認するには、Database Summary にアクセスしてレプリケーションのステータスを調べます。
2. CLI を使用して確認するには、**utils dbreplication runtimestate** を入力します。

ステップ 4 次の例に示されているように CLI コマンド **utils diagnose** を入力し、ネットワーク接続と DNS サーバの設定を確認してください。

例 :

```
admin: utils diagnose module validate_network
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log
Starting diagnostic test(s)
=====
test - validate_network : Passed
Diagnostics Completed
admin:
```

ステップ 5 Cisco Unified レポートツールで Unified CM Database Status レポートを生成します。そのレポートにエラーや警告が記録されていないか確認します。

ステップ 6 Cisco Unified レポートツールで Unified CM Cluster Overview レポートを生成します。そのレポートにエラーや警告が記録されていないか確認します。

ステップ 7 最初のノードの Cisco Unified Communications Manager Administration から、[システム (System)] > [サーバ (Server)] の順に選択し、[検索 (Find)] をクリックします。クラスタにあるすべてのサーバが一覧表示されます。後で参照できるように、サーバのこのリストを保持します。ク

ラスト内のノードごとに、ホスト名と IP アドレスの両方のインベントリが保存されていることを確認します。

- ステップ 8** 手動でディザスタリカバリシステムのバックアップを実行し、すべてのノードとアクティブなサービスが正しくバックアップされていることを確認します。詳細については、『*Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- ステップ 9** ホスト名を変更する場合、SAML シングルサインオン (SSO) を無効にします。SAMLSSOの詳細については、『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- ステップ 10** セキュリティが有効なクラスタ (クラスタセキュリティモード 1-混合) について、証明書信頼リスト (CTL) ファイルを更新します。既存の CTL ファイルへの新しい TFTP サーバの追加など、CTL ファイルの更新と管理の方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Security Guide*』を参照してください。

(注) 通信不可能な時間が無駄に発生しないように、TFTP サーバの新しい IP アドレスで CTL ファイルを更新してから、TFTP サーバの IP アドレスを変更するようにします。この手順を実行しない場合は、セキュリティが有効なすべての IP 電話を手動で更新する必要があります。

(注) セキュリティをサポートしているすべての IP 電話では、CTL ファイルが必ずダウンロードされます。このファイルには、その電話からの通信が許可されている TFTP サーバの IP アドレスが記述されています。TFTP サーバの IP アドレスを変更した場合は、その新しい IP アドレスを CTL ファイルに追加する必要があります。これにより、該当の電話からその TFTP サーバと通信できるようになります。

IM and Presence サービスノードの変更前セットアップタスク

該当する変更前セットアップタスクを実行して IP アドレス、ホスト名、ドメイン、またはノード名が正常に変更されるようにシステムが準備されていることを確認します。これらのタスクは、スケジュールしたメンテナンス時間内に実行する必要があります。



注意

これらのタスクを実行しても期待する結果が得られない場合は、問題が解決されるまで続行しないでください。



- (注) ドメイン名またはノード名を変更しない限り、Cisco AXL Web サービス、および IM and Presence Cisco Sync Agent サービスが起動していることを確認する手順を実行する必要はありません。実行するタスクの完全な一覧については、変更前のタスク リストを参照してください。

手順

ステップ1 クラスタにあるすべてのノードでデータベースレプリケーションのステータスを調べ、すべてのサーバがデータベースの変更内容を正常に複製していることを確認します。

IM and Presence Service の場合、導入環境に複数のノードがあるときにはデータベースパブリッシャノードでデータベースレプリケーションのステータスを調べます。

Unified RTMT または CLI を使用します。すべてのノードで **2** のステータスが表示される必要があります。

a) RTMT を使用して確認するには、Database Summary にアクセスしてレプリケーションのステータスを調べます。

b) CLI を使用して確認するには、`utils dbreplication runtimestate` を入力します。

出力例については、データベースレプリケーションの出力例に関するトピックを参照してください。詳細な手順およびトラブルシューティングについては、データベースレプリケーションおよびデータベースレプリケーションのトラブルシューティングについてのトピックを参照してください。

ステップ2 次の例に示されているように CLI コマンド `utils diagnose` を入力し、ネットワーク接続と DNS サーバの設定を確認してください。

例：

```
admin: utils diagnose module validate_network Log file:
/var/log/active/platform/log/diag1.log Starting diagnostic test(s)
===== test - validate_network : Passed Diagnostics
Completed admin:
```

ステップ3 手動でディザスタリカバリシステムのバックアップを実行し、すべてのノードとアクティブなサービスが正しくバックアップされていることを確認します。

詳細については、『Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。

ステップ4 すべてのプレゼンス冗長グループでハイアベイラビリティ (HA) を無効にします。プレゼンス冗長グループの構成情報は、Cisco Unified Communications Manager システム設定ガイドの「プレゼンス冗長グループの設定」の章を参考してください。

- (注)
- HA を無効にする前に、各ノードとサブクラスタのユーザ数の記録を取ります。この情報は、[Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] の [システム (System)] > [プレゼンス トポロジ (Presence Topology)] ウィンドウで見つけることができます。
 - HA を無効にした後、それ以上の変更を加える前に、クラスタ全体にわたって設定が同期されるまで、少なくとも 2 分待機します。

- ステップ 5** ホスト名を変更する場合、SAML シングルサインオン (SSO) を無効にします。SAMLSSO の詳細については、『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- ステップ 6** 現在アクティブなすべてのサービスのリストをまとめます。後で参照できるように、これらのリストを保持します。
- Cisco Unified Serviceability を使用してアクティブなネットワーク サービスのリストを表示するには、[ツール (Tools)] > [コントロール センター ネットワーク サービス (Control Center - Network Services)] を選択します。
 - Cisco Unified Serviceability を使用してアクティブな機能サービスのリストを表示するには、[ツール (Tools)] > [コントロール センター機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。
- ステップ 7** Cisco Unified Serviceability を使用してすべての機能サービスを停止するには、[ツール (Tools)] > [コントロール センター機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。機能サービスを停止する順序は重要ではありません。
- ヒント IP アドレス、ホスト名、または IP アドレスとホスト名の両方を変更する場合、この手順を実行する必要はありません。これらの名前の変更に対して、機能サービスは自動的に停止します。
- ステップ 8** [ツール (Tools)] > [コントロール センター機能サービス (Control Center - Services)] を選択するとき、Cisco Unified Serviceability を使用して [IM and Presence サービス (IM and Presence Service)] サービスグループの下にリストされる以下のネットワーク サービスを停止します。次の順序で、これらの IM and Presence Service ネットワーク サービスを停止する必要があります。
1. Cisco Config Agent
 2. Cisco Intercluster Sync Agent
 3. Cisco Client Profile Agent
 4. Cisco OAM Agent
 5. Cisco XCP Config Manager
 6. Cisco XCP Router
 7. Cisco Presence Datastore
 8. Cisco SIP Registration Datastore
 9. Cisco Login Datastore
 10. Cisco Route Datastore
 11. Cisco Server Recovery Manager
 12. Cisco IM and Presence Data Monitor
- ステップ 9** Cisco Unified Serviceability ([ツール (Tools)] > [コントロール センターの機能サービス (Control Center - Feature Services)]) を使用して、Cisco AXL Web Service が Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードで起動していることを確認します。
- (注) ドメイン名またはノード名を変更する場合にのみ、この手順を実行します。
- ステップ 10** IM and Presence Cisco Sync Agent サービスが開始し、同期が完了したことを確認します。

(注) ドメイン名またはノード名を変更する場合にのみ、この手順を実行します。

- a) Cisco Unified Serviceability を使用して確認するには、以下の手順を実行します。
1. [ツール (Tools)] > [コントロールセンターのネットワーク サービス (Control Center - Network Services)] を選択します。
 2. IM and Presence データベース パブリッシャ ノードを選択します。
 3. [IM and Presence サービス (IM and Presence Service)] サービスを選択します。
 4. Cisco Sync Agent サービスが開始していることを確認します。
 5. Cisco Unified CM IM and Presence Administration GUI から、[診断 (Diagnostics)] > [システム ダッシュボード (System Dashboard)] > [同期ステータス (Sync Status)] を選択します。
 6. 同期が完了し、同期ステータス領域にエラーが表示されていないことを確認します。
- b) IM and Presence データベース パブリッシャ ノードで Cisco Unified CM IM and Presence Administration GUI を使用して確認するには、[診断 (Diagnostics)] > [システム ダッシュボード (System Dashboard)] を選択します。
-

